

平成 29 年度第 3 回ハタハタ資源対策協議会資料

1 日本海北部5県の漁獲量

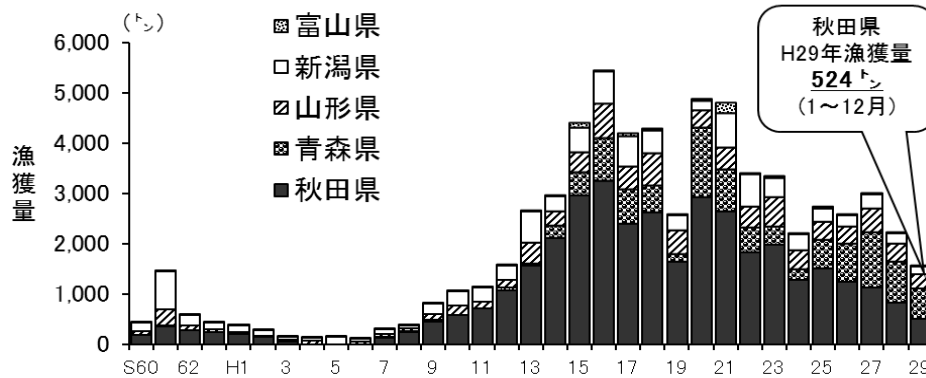


図1 日本海北部5県における漁獲量の推移（暦年；H29 は日本海区水産研究所調べ）

- H29年1～12月の秋田県の漁獲量は524トンで、前年（835トン）の63%であった。
- H29年の5県漁獲量（速報値）は 1,571 トンで、前年（2,230トン）の71%であった。
- 秋田県の割合は 33 % で、前年に比べ 5 ポイント低下した。
- 県別漁獲量は、青森604トン（前年比74%）、山形272トン（79%）、新潟163トン（74%）、富山9トン（118%）であり、富山県を除く全ての県で減少した。

2 秋田県の沖合と沿岸の漁獲量と漁獲枠達成率

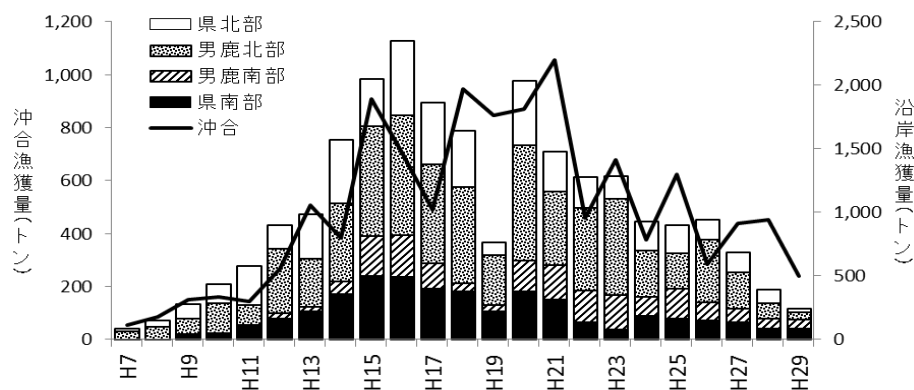


図2 沖合（線グラフ）および沿岸（棒グラフ）での漁獲量の推移

※沿岸漁獲量は県北部（岩館～八竜）、男鹿北部（若美～戸賀）、男鹿南部（樺～天王）、県南部（秋田～象潟）とし、H8年まで暦年、H9年以降は管理漁期（水産漁港課調べ）。H29年漁期の底びき漁獲量はH30年2月末までの値

- H29年漁期の漁獲量は沖合238トン、沿岸240トン、全体で478トンで、配分枠に対する実績は沖合82%（漁獲枠290トン）、沿岸56%（430トン）、全体で66%（720トン）であった。
- 定置網・刺網漁の漁獲量は、県北部・男鹿北部では前年を下回った一方、男鹿南部・県南部では前年並みであり、漁場形成に偏りが生じた。

3 沖合漁獲量の推移

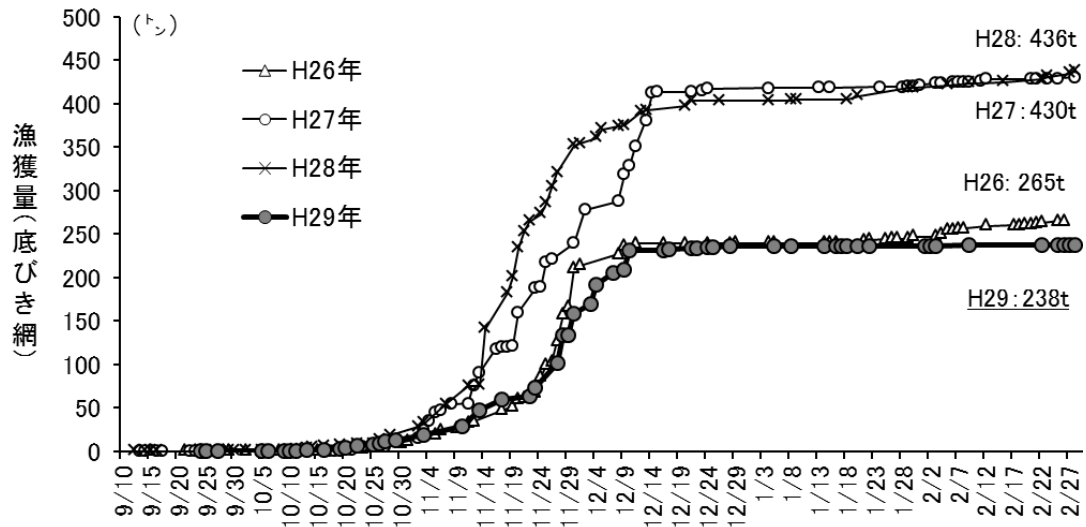


図3 底びき網漁獲量の推移(全県)

- 初水揚げは9月24日で、船川・南部で計58kgが水揚げされた。
- 11月上旬までは小型魚主体であったが、中旬以降は中・大型魚の割合がやや上昇した。
- H30年2月末時点の漁獲量は238トンで、前年漁期同期の54%であった。

4 沿岸漁獲量の推移

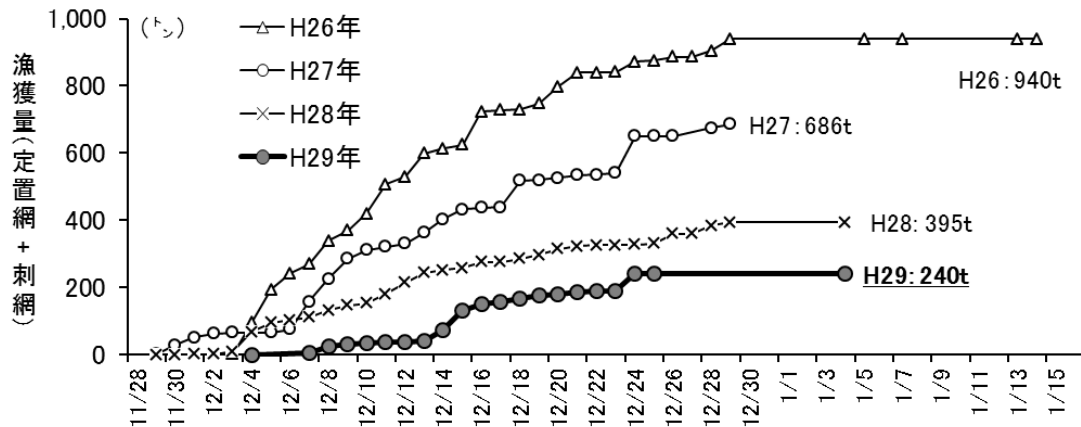


図4 沿岸漁獲量の推移(全県)

- 初漁日は12月4日(昨漁期は11月29日)で、県北部(八森)で1.1kgが水揚げされた。
- 初めて1トン以上の漁獲があったのは12月7日で、近年では遅めであった。
- ほとんどの地区で、12月中旬に1～2回、比較的まとまった漁獲があった程度であった。
- 今漁期の漁獲量は240トンで、H28年漁期の61%に留まった。

5 ハタハタ体長組成

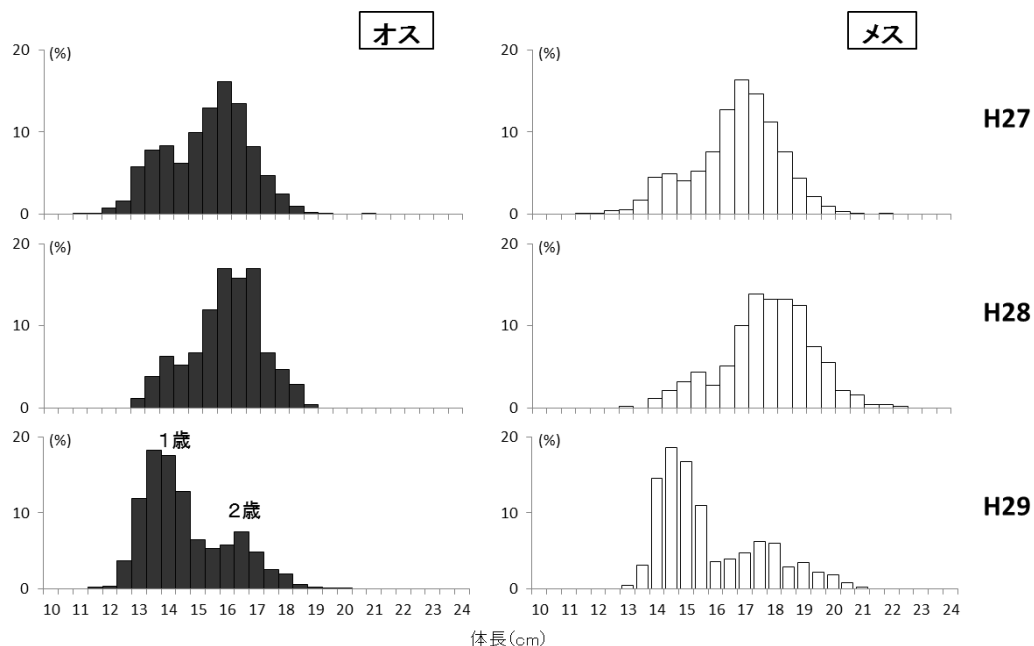


図5 ハタハタ体長組成の経年比較（底びき網での漁獲物）

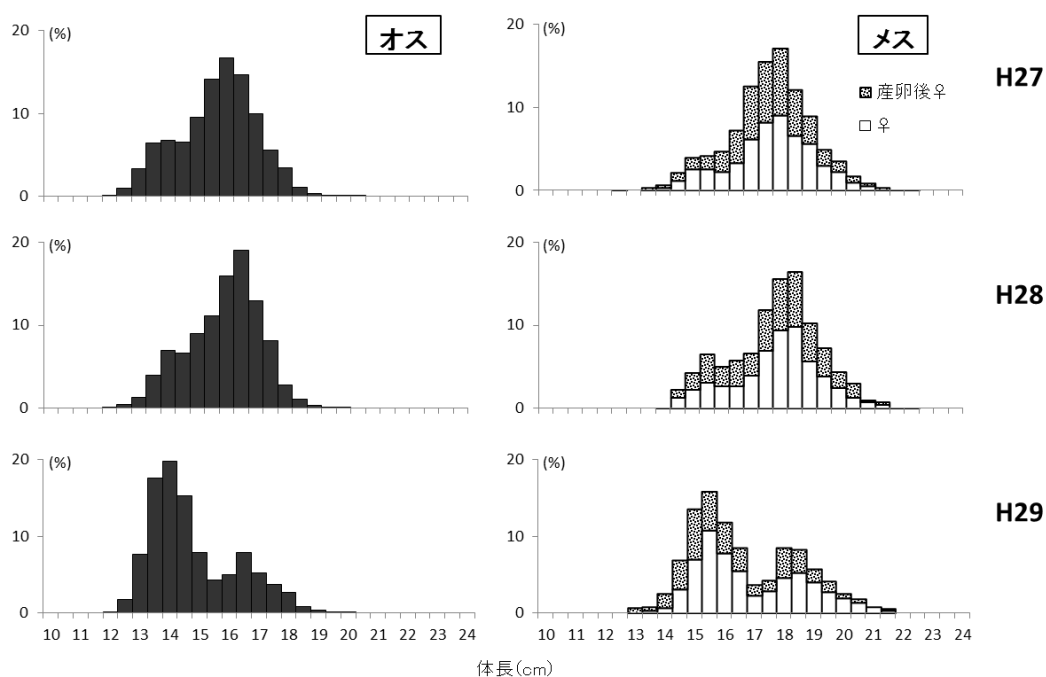


図6 ハタハタ体長組成の経年比較（定置網での漁獲物）

- 底びき網、定置網ともに1歳が中心で3歳以上はかなり少なく、2歳も少なかった。
- 近年は、生残が顕著に良い年級群（卓越年級群）が発生していないことに加えて、3歳までの生残も低く推移している可能性がある。

6 底びき網漁の漁況

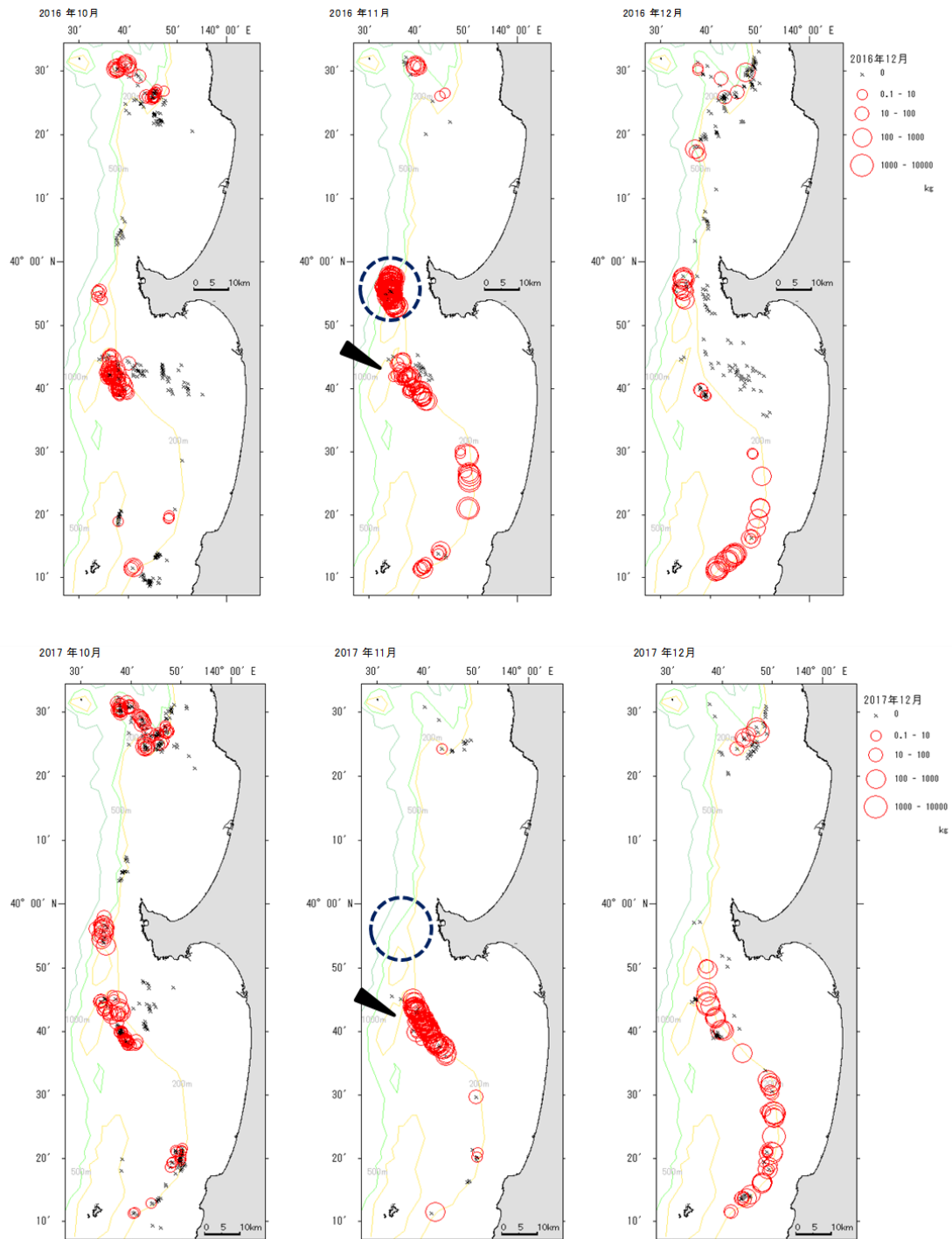


図7 H28 年(上)とH29 年(下)10-12 月における底びき網船の操業位置とハタハタ漁獲量
(北部 2 隻、船川・南部各 1 隻の全データ)

- 11月にはシグレ周辺(図7▲)で漁場が形成された。
- 一方、昨年好漁場であった男鹿半島西岸(破線○)ではほとんど漁場が形成されなかった。

7 産卵場における卵と藻場の状況

表 ハタハタ卵塊密度の推移(個/㎡)

地区	定点※	調査年(産卵年の翌年:2006年は3月に、他の年は1～2月に実施)										
		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
岩館	小入川 st. 1	2.3	1.4	3.0	11.8	10.0	19.5	10.5	26.0	N.D.	N.D.	0.0
	小入川 st. 2	86.9	0.9	2.0	1.1	2.4	2.8	N.D.	2.2	N.D.	N.D.	0.2
八森	漁協脇 st. 3	57.7	7.7	85.1	53.5	71.0	250.8	11.7	42.5	66.9	65.4	8.8
北浦	八斗崎 st. 1	9.6	189.9	137.1	128.9	91.8	136.6	N.D.	36.0	28.3	2.3	0.6
	八斗崎 st. 2	0.1	1.5	1.4	1.0	6.3	2.4	N.D.	0.5	1.5	0.3	0.3
	湯の尻 st. 1	2.6	42.1	13.6	14.6	2.5	7.4	N.D.	0.8	0.1	0.0	0.0
	湯の尻 st. 2	7.9	11.0	7.0	11.5	5.7	4.7	N.D.	1.1	1.3	0.0	0.0
船川	備蓄 st. 2	263.3	271.2	289.6	273.7	253.4	150.4	32.7	46.7	11.0	0.1	13.4
	備蓄 st. 3						154.3	626.8	758.7	187.3	77.7	23.3
脇本	脇本									20.8	24.4	4.1
平沢	鈴分港 st. 2	37.5	162.3	34.2	64.2	12.1	68.3	N.D.	344.4	N.D.	N.D.	36.8
象潟	st. 3						45.4	N.D.	75.9	22.1	N.D.	3.2

※ N.D.は悪天候によりデータが得られなかった調査点を示す

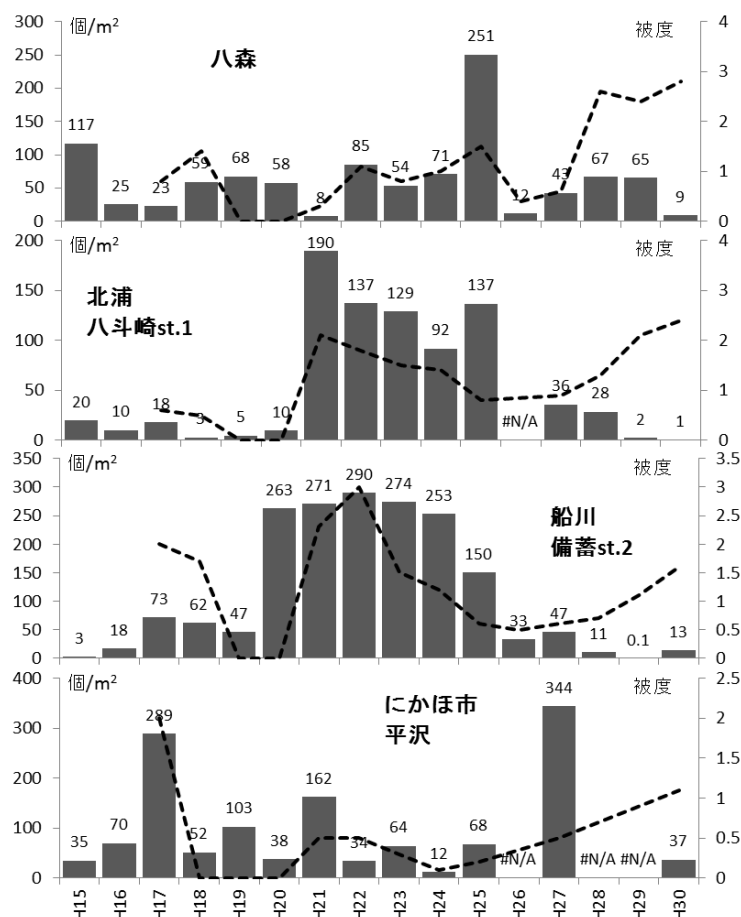


図8 秋田県沿岸におけるハタハタの卵塊密度(棒グラフ)と海藻被度(破線)

- ほとんどの地区で卵塊密度は前回調査よりも低下した。
- 近年は、産卵場の藻場の状況に大きな変化はなく、比較的良好な状態と判断される。

8 海岸に漂着したハタハタ卵塊(打ち上げブリコ)の重量

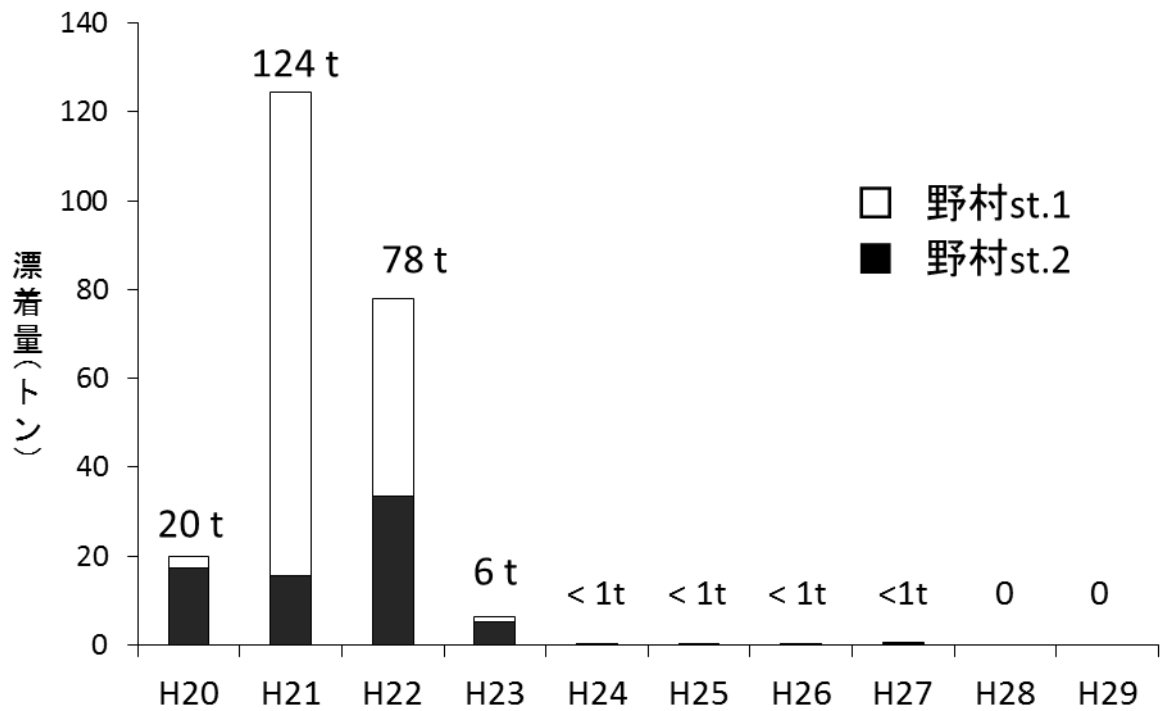


図9 北浦野村への漂着量の経年変化(各年12月)

- H29年12月には北浦野村海岸への漂着が確認できなかった。
- 全県的には、北浦相川と県南部(平沢漁港鈴分港周辺)で漂着が確認された他は、卵塊の漂着は認められなかった。

9 その他

- H30年2月に、海底に生息する生物(ヤギ類?)の上に産み付けられたハタハタ卵が八森沖水深180~190mのテリ刺網に複数掛かったとの漁業者情報があった。
- 深場に産み付けられたハタハタ卵は前年も確認されている。

【ハタハタ資源の状況】

- H29年漁期: 1歳魚(H28年産まれ)は多く、2歳以上は少ない
- H30年漁期: 2歳魚が主体となり、今漁期よりも漁獲量の増加が見込まれる
- 資源は増加傾向になく、現在の獲り方では再び大きく減少する可能性がある

【今後の漁業管理について】

1 現状と課題

- 小型魚などが漁獲量に含まれない傾向があるため、資源量を過小評価してきた
- 未集計分の漁獲量を含めて再計算すると、漁獲率(資源量に対する漁獲量の割合)は近年高まり続けている
- 現状の漁業管理では資源の回復を妨げる可能性がある

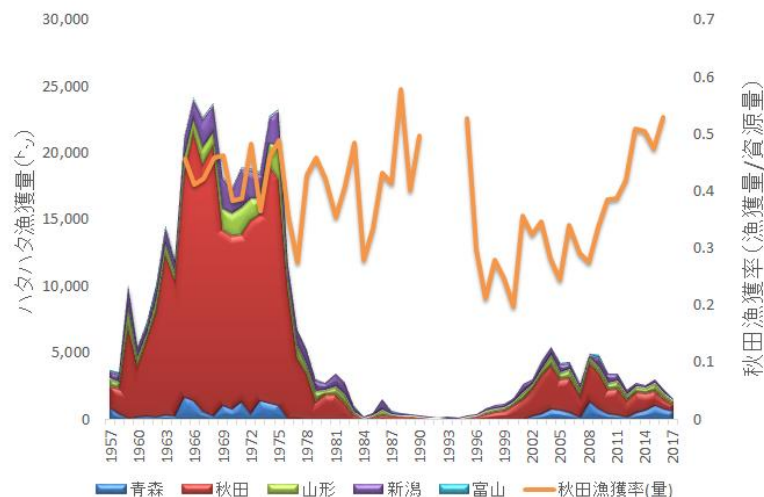


図 ハタハタ漁獲量と漁獲率の推移

2 今後の管理方策について

(1) 漁業管理手法の改良

- 漁獲枠算定基準である「漁獲対象資源量×0.4」を、「×0.3」に引き下げる
- 現在は漁獲枠を1回で配分しているが、獲れ方に応じて漁獲枠を配分する方法を検討
- 共同操業の導入、網数の削減、漁期の短縮
- 小型魚の混獲を低減する漁具の導入

(2) ハタハタ資源が少ない年にも収益を確保するために

- 漁獲物の集約と生鮮・加工向け販売体制の強化
- ハタハタ以外の魚種での収益性を改善

【参考資料】

付表1 秋田県におけるハタハタ漁獲枠と漁獲実績の推移

漁期年※	沖合			沿岸			合計		
	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成 7年	85	54	63	85	89	104	170	143	84
8年	110	86	78	110	157	143	220	243	111
9年	180	148	82	180	280	155	360	428	119
10年	300	162	54	300	438	146	600	599	100
11年	400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
12年	400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
13年	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
14年	680	384	57	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
15年	960	907	94	1,440	2,051	142	2,400	2,958	123
16年	1,000	707	73	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
17年	1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
18年	800	944	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
19年	720	847	118	1,080	765	71	1,800	1,612	90
20年	1,200	868	72	1,800	2,035	113	3,000	2,903	97
21年	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
22年	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
23年	1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70
24年	1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48
25年	768	624	81	1,152	898	78	1,920	1,522	79
26年	672	285	42	1,008	940	93	1,680	1,225	73
27年	320	438	137	480	686	143	800	1,124	141
28年	320	450	141	480	393	82	800	844	105
29年	290	238	82	430	240	56	720	478	66

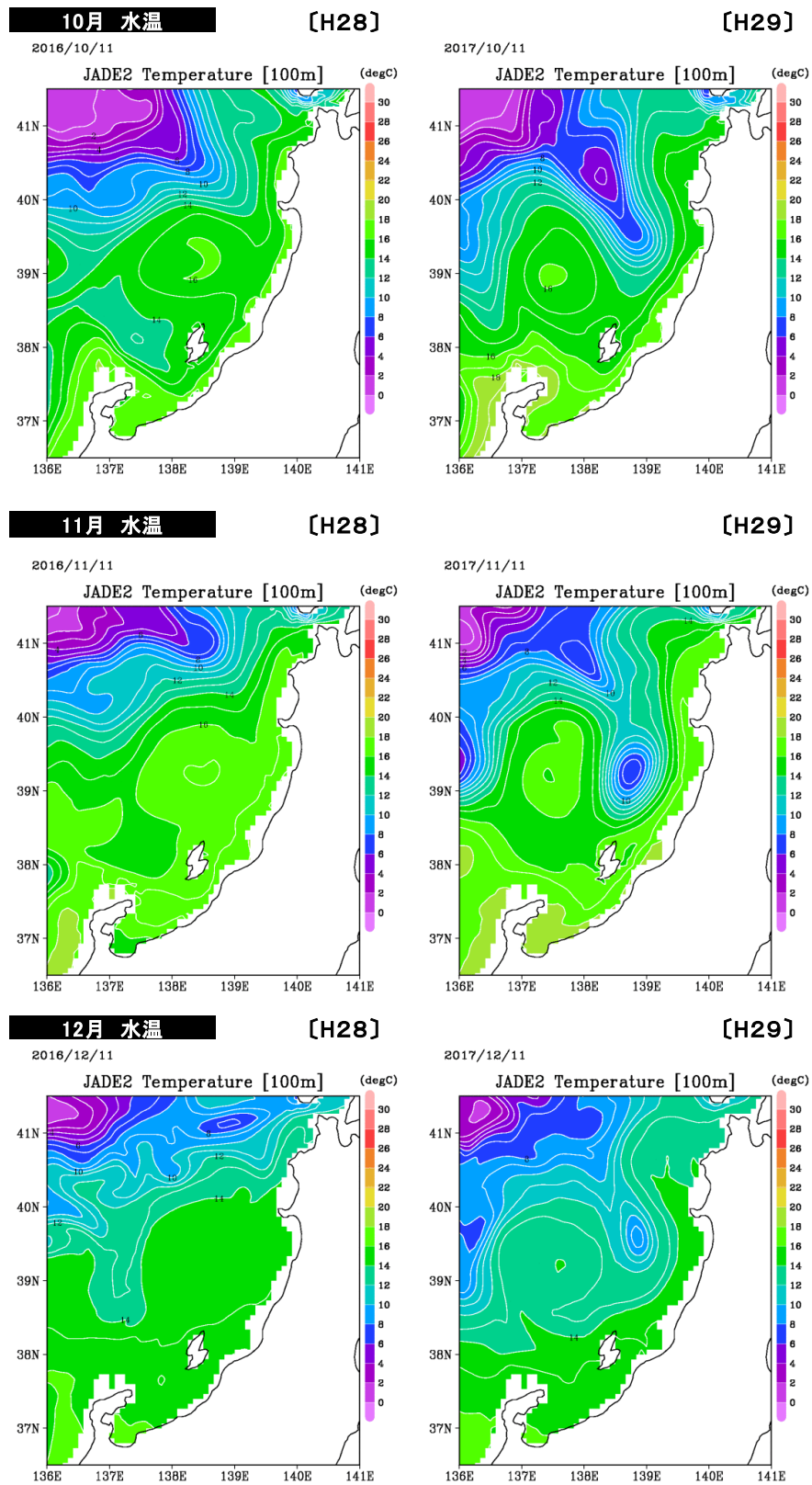
※ 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期（9月～翌6月）の値。今漁期は沿岸は1月15日、沖合は2月末までの値。

付表2 ハタハタ漁獲量と漁獲金額の推移（秋田県調べ）

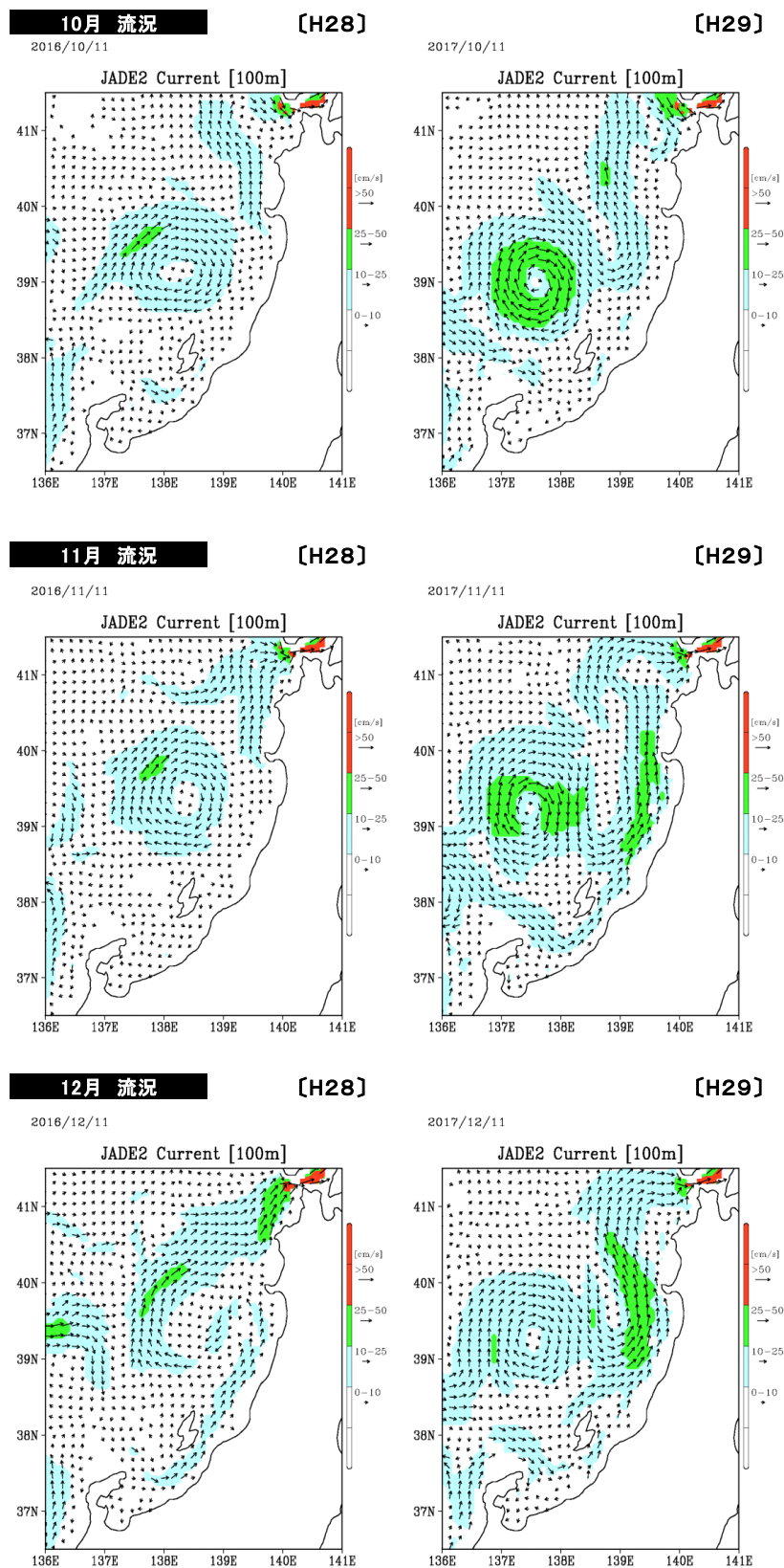
漁期年※	漁獲量(トン)			漁獲金額(千円)			単価(円/kg)		
	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	平均
7年	54	89	143	196,724	239,821	436,545	3,658	2,703	3,063
8年	86	157	243	224,558	280,367	504,925	2,607	1,783	2,075
9年	148	280	428	218,367	477,568	695,936	1,474	1,706	1,626
10年	162	438	599	202,342	411,845	614,187	1,252	941	1,025
11年	142	580	722	190,537	597,957	788,495	1,338	1,031	1,091
12年	265	902	1,166	186,801	557,096	743,897	706	618	638
13年	506	986	1,493	450,761	638,527	1,089,289	890	647	730
14年	384	1,570	1,954	214,761	530,312	745,072	559	338	381
15年	907	2,051	2,958	452,811	606,298	1,059,109	499	296	358
16年	707	2,349	3,055	272,221	678,022	950,242	385	289	311
17年	489	1,867	2,356	236,381	555,949	792,329	483	298	336
18年	944	1,640	2,584	365,188	458,605	823,793	387	280	319
19年	847	765	1,612	494,974	296,431	791,405	584	387	491
20年	868	2,035	2,903	257,041	346,654	603,695	296	170	208
21年	1,054	1,475	2,530	305,754	293,277	599,031	290	199	237
22年	457	1,277	1,734	214,136	352,301	566,437	468	276	327
23年	677	1,287	1,964	275,345	265,686	541,031	407	206	275
24年	376	931	1,307	196,639	344,001	540,640	523	369	414
25年	624	898	1,522	255,740	320,009	575,749	410	356	378
26年	285	940	1,225	162,317	288,459	450,776	570	307	368
27年	438	686	1,124	250,573	260,277	510,850	571	380	454
28年	450	393	844	247,819	218,211	466,030	550	555	552
29年	238	240	478	215,084	148,686	363,770	905	618	761
H29/H7	4.4	2.7	3.4	1.1	0.6	0.8	0.2	0.2	0.2
H29/H28	0.5	0.6	0.6	0.9	0.7	0.8	1.6	1.1	1.4

※ 付表1に同じ

図はすべて拡張版日本海海況予報システム JADE2 より引用 (<http://jade2.dc.affrc.go.jp/jade2/>)



付図1 H28 年(左)、H29 年(右)の水深 100m 帯の水温分布



付図2 H28 年(左)、H29 年(右)の水深 100m 帯の流向・流速